

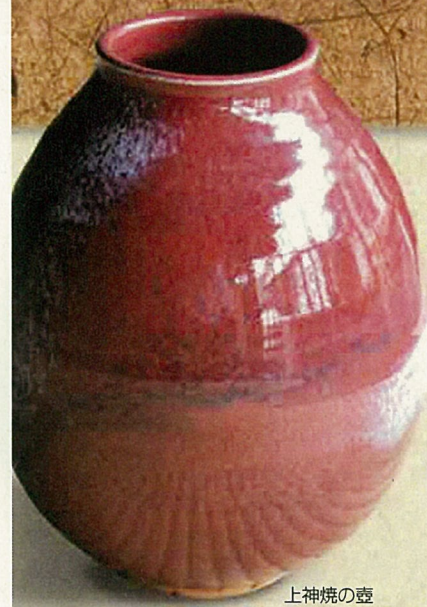
# 鳥取の手仕事

## 伝統の技と新たな挑戦

### 中部地区の陶磁器

[第6回]

鳥取県中部地区では、古代から焼き物が作られてきました。近世の歴史を引き継ぐ上神焼をはじめ、現在8軒の窯元があります。今回は、県伝統工芸士の窯元を中心に中部地区の陶磁器を紹介します。



上神焼の壺

### 伝統の色 辰砂釉

倉吉市上神地方では、宝暦年間頃（1750年頃）から伯尾山、伯州尾山という名称で、明治の頃には、亀玉、伯面、玉伯という名称で製陶が行われていました。これらは上神焼と呼ばれ、鮮やかな赤色を発色する辰砂と呼ばれる釉薬を使うのが、伝統的な特徴です。

現在、この伝統と上神の名を引き継ぐ窯元に「上神焼」と「上神焼上神山窯」があります。

上神焼は、昭和18年に初代音吉が築きました。初代の京風のつくり二代目三郎（不入）がロクロ味や釉薬に独特の芸風を継ぎつつ地方色を加え、二代目清（伯雅）は辰砂釉や梨灰釉等の伝統を受け継ぐとともに、新しい手法で作品を創作しています。

上神焼上神山窯は大正時代頃、平野洞雲に師事した初代藤一が開窯しました。初代藤一は上神焼の長い伝統と色鮮やかな辰砂を二代藤（民也）に継承。その伝統は三代芳子に引き継がれています。三代芳子は辰砂はもとよ

り染付などの分野も得意とします。



上山山窯の湯呑、急須(上段)  
上山山窯のコーヒーカップ(下段)

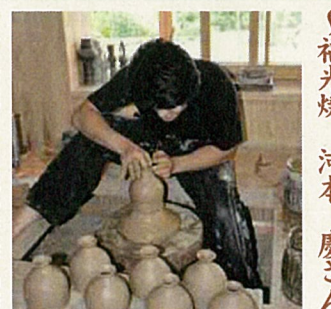
### 民芸に根ざした仕事

歴史がある上神焼が継承される一方、近年は、倉吉地区出身者が他所で修行し、地元で独立した窯元もあります。特に民芸運動の影響を受けた師匠に学び、その精神を引き継いでいる窯元に「福光焼」と「黒見焼」があります。丹波立杭で活躍した鳥取県出身の陶芸家、生田和孝に師事し、昭和55年に窯を築いた福光焼は、登り窯での焼成にこだわる数少



福光焼の陶箱(上段)  
面取ポット(下段)

### 未来の匠を目指して



父・河本賢治さんに師事し、15歳から作陶。26歳。

福光焼では、親子で作品作りに取り組んでいます。息子の慶さんは、中学校卒業後、高校に通いながら、家業を手伝って来ました。湯呑みなど食器を中心に手付きピッチャーや一輪挿しなども制作しています。

10年間の作陶経験がある慶さんのろくろ作業は堂々としたもので、難易度の高い輪挿しの口をスルルとして仕上げます。

父親の賢治さんは、「小さい頃から、手先が器用でした。いつもちよこちよこ、何かやっていたねえ」と目を細めて、思い出を語ってくれました。



中学3年生の時の作品。  
角瓶に龍が巻き付いている

「大抵のものは、見たり、分解した機械いじりが好きな慶さんは、

※日本各地の日常雑器・日用品など、無名の工人による民衆的工芸品の中に真の美を見出し、世に広く紹介する活動



黒見焼 面取花瓶

ない窯元です。鉄による黒釉（黒化粧）と鉛釉とのコントラストを生かし、薄手ながらも重厚な作風が特徴です。

黒見焼は、民芸家・吉田璋也の紹介で因州中井窯にて修行し、昭和47年に登り窯を築きました。日常生活に使う食器などを作る一方、茶道具も手がけています。暮らしにのけ込む焼き物を目指し、用の美を大切にしています。

### 個性豊かな中部地区の窯元

中部地区には、他にも四つの窯元があります。

焼締窯変という方法でさまざまな色彩を奏でる「国造焼」、大正末期からの歴史がある「玉伯焼」、地元の素材を使い、現代的な造形をつくる「倉吉焼八幡窯」、茶道具からカジカガエルの置物まで揃える「みささ白狼焼窯」がその四つです。

中部地区のこれら八つの窯元による合同展示会が、毎年、地元倉吉市にて開催されています。たくさんさんの作品を一堂に見られる数少ない機会です。一度のぞいてみてはいかがでしょうか。



毎年、春の展示会には中部地区の窯元が一堂に集まる（倉吉未来中心にて）

### ちょっとだけ、窯の話

窯元さんたちは、作品の作風など仕上がり具合を考えて、窯を使い分けています。

昔一般的に使われていた登り窯は、松などの木材を燃料にします。近年は良質の松が少なく、調達に困難とのこと。登り窯は、炊き方や気候などいろいろなことに影響されやすく、人の手が及ばない、炎が作り出す味が魅力です。

他には、登り窯に近い仕上がりになる灯油窯、比較的均一な仕上がりが可能なガス窯、緻密な絵付けや造形など微細な制御ができる電気窯などもあります。

窯のことを知ると窯元さんを訪ねたり、作品を鑑賞する楽しみが二層膨らむことでしょう。



福光焼の登り窯  
松の薪が山積みされています

### 詳しくは...

- とりネット  
「とどりの手仕事」(手仕事全般)  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/teshigoto>
- 「とどりの工芸品」(伝統的工芸品)  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=95598>
- パンフレット「鳥取の手仕事」  
(鳥取県市場開拓室発行)をご覧ください。

問合せ先 県庁観光政策課  
電話 0857-26-7237



慶さん作の  
黒釉ピッチャー

りすればわかるし、インターネットでも調べます」と好奇心と探求心が旺盛です。賢治さんは、「最初はきちつと形を作れるようになるのが大事。それができるようになったら、作家でも職人でも自分の好きな道を選んだらいい。あとは感性次第と、頼もしい息子に期待を寄せます。

普段は物静かな慶さんですが、「人と違うことをしている父を尊敬しています。自分も人と違うことをするのが好きです」と話す口調は力強く、父と自分の仕事への誇りが感じられます。今秋、窯出しが予定されている作品がどんな風に仕上がるか楽しみです。